

都道府県名	岡山県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	建部町立建部中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	3	1	8	14
生徒数	65	61	83	2	211	

研究の概要

1. 研究主題

<p>「確かな学力」を身に付けた生徒の育成 - 個に応じた指導方法の工夫改善 -</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>数学と英語と各教科 全学年の数学（学力の格差が既に顕著で、学習内容の系統性が強い教科であるため） 全学年の英語（理解度に格差が出やすく、学習内容の系統性が強い教科であるため） 各教科（数学や英語に加え、各教科の特性を生かし、個に応じたきめ細かな指導方法の工夫改善を図るため）</p>

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「確かな学力」を身に付けた生徒の育成 - 個に応じた指導方法の工夫改善 -</p> <p>研究の見通し 生徒の学力定着状況を把握し、生徒を取り巻く学習環境を整え、学力向上の基盤づくりを推進する。そして、個に応じたきめ細かな指導方法の工夫改善を図ることで、基礎・基本の確実な獲得と定着を図ることができ、そのことが生徒に充実感や成就感を味わわせ、学習意欲を持たせることにつながる。このような実践研究を通して「確かな学力」を身に付けた生徒の育成ができると考えた。</p> <p>研究の内容・方法 すべての生徒に基礎・基本の獲得と定着を図り、徹底させるための工夫改善を図る。 ・各単元の基礎・基本を明確にし、指導に当たるようにする。 ・基礎・基本の獲得と定着を図るための取組を各教科で実践する。</p> <p>教科等の指導における指導方法の工夫改善を図る。 ・理解や習熟の程度あるいは課題に応じた指導方法や指導形態について研究する。 ・ＴＴの数学科と少人数の英語科において、指導方法や指導形態の工夫改善を図る。</p> <p>学習意欲を高めるための指導方法の工夫改善を図る。 ・分かる授業の在り方を指導方法や教材・教具の面から研究・開発をする。 ・教科等において、課題解決学習の工夫改善に取り組む。</p> <p>評価について研究する。 ・指導に生かす評価について実践研究する。 ・信頼性を高めるための評価について研究する。</p>
--------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 「確かな学力」を身に付けた生徒の育成 - 個に応じた指導方法の工夫改善 -</p> <p>研究の見通し 15年度の仮説を焦点化させ、深化させることで、研究テーマに迫れる と考えている。</p> <p>研究の内容・方法 15年度の研究内容・方法を焦点化させ、深化させる。</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制

<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上フロンティア事業に関する実践研究の組織 研究推進委員会・・・校長，教頭，教務，研究主任，部会長 教科会・・・教科主任，教科担当者 3つの部会・・・数学・英語部会，国語・社会・理科部会，実技4教科部会 部会・・・部会長，部員
--

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<p>1 数学科におけるTT指導の取組</p> <p>(1) TT指導を個に合わせた指導方法や指導形態でとらえ、単元や学習内容によって使い分け、工夫改善を図ることができた。このことで、生徒は様々な学習方法や学習形態を経験し、学習意欲を高めることができた。</p> <p>(2) TT指導では、T1，T2ともに形成的評価等で全生徒の学習状況を把握し、個々の理解や習熟の程度に応じた指導・支援を行うことができた。特に、質問や疑問に対して即対応でき、個に応じた指導場面が増加してきた。このことで、基礎・基本の獲得と定着が容易になるとともに学習意欲を高めることができた。</p> <p>(3) 習熟度に応じた課題を設定し、T1，T2が基礎・基本の問題を解いている生徒を中心に効率的に机間指導を行ったので、基礎・基本の獲得と定着が容易になった。</p> <p>(4) 数学の問題に取り組むとき、数量を文字や記号を用いて考えたり、既習内容を使って考えたりするような学習はかなりの生徒ができ、数学的な考え方が少しずつ身に付いてきた。</p> <p>2 英語科における少人数指導の取組</p> <p>(1) 少人数授業を習熟度別で実施するようになり、より個に応じた指導ができるようになった。</p> <p>(2) 少人数の利点を生かし、コミュニケーション活動を多く設定できるようになった。</p> <p>(3) 少人数の利点を生かし、座席の位置を半円形にし、発言場面を多く設定したので、こじんまりとした雰囲気の中で、充実感を味わわせるとともに基礎・基本の獲得と定着が容易になった。</p> <p>(4) かなりの生徒が意欲的に英語を理解しようと努力し、辞書を引くなど積極的に取り組むようになってきた。</p> <p>3 学習意欲を高めるための指導方法の工夫改善の取組</p> <p>(1) 一人ひとりが主体的に学習できるような場を設定することで、学習意欲を高めることができた。</p> <p>(2) 自己評価を基に個々の学習状況に応じた指導をすることで、学習意欲を高めることができた。</p> <p>(3) 理解の手助けになる教材の研究・開発をすることで、学習意欲を高めることができた。</p>

2. 今後の課題

- 1 数学科におけるT T指導の取組
(1) 実践研究した指導方法や指導形態の検証だけでなく、学力向上をどのように把握していくか。
(2) 単元や内容によって、T Tと少人数習熟度別授業をどのように使い分けていくか。また、発展学習や補充学習の教材の研究・開発をどのように進めていくか。
(3) 与えられた条件を使って論理的に推論したり、別解を考えたりするような学習は半数に近い生徒ができていないので、どのように工夫改善を図るか。
- 2 英語科における少人数習熟度別指導の取組
(1) 実践研究した指導方法や指導形態の検証だけでなく、学力向上をどのように把握していくか。
(2) 基礎・基本の定着のクラスでは、できるだけ要点を絞って基本文が定着するよう指導しているが、成果が出ていない。習熟度に応じた課題の出し方について、どのように工夫改善を図るか。
また、習熟度別では考查の問題づくりや評価の仕方も難しいので、どのように工夫改善を図るか。
(3) 自分の考えを英語で表現することは半数に近い生徒ができていないので、どのように工夫改善を図るか。
- 3 学習意欲を高めるための指導方法の工夫改善の取組
(1) 学習意欲を高めるための評価について更に研究を深める必要がある。
(2) 自己評価に応じた評価の困難さもでてきたので、どのように工夫改善を図るか。
(3) 教材の研究・開発には費やす時間がかかったので、教材を蓄積し共有したり、他校と情報交換したりする必要がある。
- 4 学習環境づくりの工夫改善の取組
(1) 学力向上の基盤づくりの取組については、研究を深めていきたい。
(2) 教科の学習にふさわしい教室の充実については、工夫改善を図りたい。

学力把握のための学校としての取組

学習に関する実態調査の実施（年1回）
学力定着度調査の実施（年1回）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・平成16年秋に発表会を開催する予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無